

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	泉北わわ		
○保護者評価実施期間	2025年 9月 24日		2025年 9月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2025年 9月 16日		2025年 9月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 10月 1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者と職員が子どもに共通理解ができている。	HUGアプリの導入により、保護者と職員の負担軽減につながった。個人のライン、電話、送迎時の会話等、いろいろなツールで、保護者とコミュニケーションを取るようになっている。	保護者の了承を得て、学校や相談支援員、他デイとの連携も増やし、共通理解を深めていく。
2	子どもが利用を楽しみにし、保護者も満足している。	学校で友達関係をつくるのが難しい子ども、デイでは可能な子が増えている。お友達と遊びたくて登所している子どもも多いので、そこに重点を置いた支援をしている。	友達の輪を増やし、小集団活動も積極的に取り入れていきたい。脳バランスキットを取り入れ、客観的なアセスメントの強化に努めていく。
3	定期的な面談があり、それ以外の時も相談への対応が迅速である。	気になる姿が見られた時には、こちらから声をかけるようにしている。心配な事には早めに対応していく。普段の様子は、写真を配信することで確認してもらうようにしている。	気になる姿が見られない時でも、学校や家での様子を聞くなどして、コミュニケーションを取っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域とのかかわりが不足している。	地域の幼稚園や小学校に通っている子がほとんどのため、普段、地域の中で頑張っている子が多く、デイの時間は、自分たちのペースで過ごせる貴重な時間となっている。	登所時間が早い日を利用して、公園等に出かけるようにする。その中で、一緒に過ごす時間を作り、負担なく関れるように支援していく。
2	保護者同士の交流の機会が少ない。 家族支援プログラムが行われていない。	コロナ禍以前は、年に1～2回保護者会を開催していたが、その後は再開出来ていない。今年度の再開に向けて動き始めている。	講師の方からお話を聞くという場を設け、その後、交流するという形で機会を作って行く予定。
3	非常災害に備えての訓練。	各種のマニュアルを作成し、月に1回の避難訓練を行っている。年に1回は、消防署と連携しての訓練も行っている。	避難訓練をする曜日が偏っていたので、参加できていない子がいた。今後は、曜日や時間が偏らないようにしていく。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 泉北わわ

公表日 R7年10月3日

利用児童数 15 回収数 14

	チェック項目	回答				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	13			1	特になし	スペースを確保できるように工夫しています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	14				特になし	毎日5名以上の職員を配置しています。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11	1	1	1	特になし	バリアフリー化は賃貸のため難しいのですが、出来るだけ配慮に努めています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	14				特になし	常に整理整頓をし、清潔に過ごせるように配慮しています。
適切 な支 援の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14				特になし	引き続き、専門性を高めるように、アセスメントツールを増やしていきます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	14				特になし	公表している支援プログラムは、随時見直していきます。
	7 こどものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	14				特になし	保護者のニーズを聞いた後、児童発達管理責任者が案を立て、職員で会議をして作成しています。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	13			1	特になし	全ての項目に支援内容を設定していますが、会議等で、不十分な部分の検討をしていきたいと思います。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	14				特になし	会議でのふり返りや、6か月ごとのモニタリングで確認しています。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	13			1	特になし	課題に応じて、必要なプログラムを活動の中に取り入れています。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	5	1	2	6	特になし	なかなか難しい取り組みのため、機会をつくっていません。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	13			1	特になし	契約時には、児童発達管理責任者が説明させてもらっています。
保 護 者 へ の 説 明 等	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	14				特になし	支援計画更新時には、懇談をし説明しています。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11			3	特になし	懇談等で、家族への支援も行うようにし、研修等の情報提供は、希望者にお知らせしています。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	14				特になし	お迎えの時や、ライン等でもお話ししてもらっています。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	14				特になし	気になることは、いつでも声をかけていただきたいと思います。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14				特になし	共感的に支援できるように努めています。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	4	2	3	5	特になし	それぞれの保護者の希望に沿う形での支援を、検討していきたいと思っています。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	12			2	特になし	相談や申し入れに、事業所だけでは対応できない場合は、本社の他部門等と相談し対応できるようにしている。
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	14				特になし	日頃から、配慮に努めています。
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	12			2	特になし	今は定期的な発信はしていません。必要なことは、その都度お伝えしています。
	22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	14				特になし	十分に留意するようにしています。
非	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12			2	特になし	マニュアルは作成し、訓練も実施しています。周知に努めます。

非常時等の対応	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	11		3	特になし	月に1回の避難訓練や、年に1度の消防通報訓練も実施しています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	12		2	特になし	今年度、安全計画を作成しました。今後周知していきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	14			特になし	基本的には、すぐに保護者の方にお知らせしています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	14			特になし	職員の知識や技術の向上に努め、安心感をもってもらえるように努めます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	14			特になし	プログラムの幅を広げ、楽しんでもらえるように努めます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	14			特になし	保護者の方の意見を参考に、今後も出来るだけ満足してもらえるように努めます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		泉北わわ（放デイ）				公表日	R7年 10月 3 日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	2	場面に応じて、2階を利用したり、公園に行く等の工夫をしている。	利用時間が重なり、療育室が混雑しそうなときは、あらかじめ、分散して利用できる予定を組んでおく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	2	少なくとも、毎日5名の職員を配置し、予定されている欠勤日は、代替職員を配置している。	送迎体制を整えていく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	2	賃貸のため、改良できない点も多いが、出来るだけ整理整頓を心掛けている。送迎車やスケジュール等は視覚支援している。	肢体不自由児を受け入れることが困難な状況にある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	0	各場所の担当者を決めて、毎月チェックしている。	満足することなく、常に確認していく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	0	限られた中で、時間を決めて場所を交代する等の工夫をしている。	どうしても譲れない場面では、事務所も利用しているが、できれば使用しないようにしていきたい。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9	0	出勤日数の少ない職員は、会議には参加できないことも多いので、後日、意見を求めるようにしている。	できれば、全員参加で会議を行いたいと思う。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	結果は、全職員に公表している。	結果について、会議で検討していく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	年に数回は面談し、業務改善につなげるようにしている。	それぞれの意見を、気軽に発信できる環境を整えていきたい。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	9	現状は行っていない。	今後、会社全体で取り組んでいく課題だと考えている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	内部研修は行っている。	外部研修に行く職員が限られているので、検討していく。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0	支援プログラムは、作成公表している。	今後、状況に合わせて、その都度改めて行きたい。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9	0	必要に応じて、アセスメントを行い、保護者のニーズ等を確認し、児童発達支援計画を作成している。	子ども本人のニーズも、1人ずつ機会を作って確認しているが、もう少し丁寧に確認したい。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	0	児童発達支援計画案を作成後には、支援者会議を行い、共通理解を深めている。	支援者ミーティングを、毎日行うようになったので、より共通理解が得られるようにしたい。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	0	それぞれの職員が、必要に応じて確認している。	個人の判断に任せず、全体で確認する場を設けていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	0	アセスメントツールを導入し、利用開始する。	月1回のアセスメントを定期的に行っていきたい。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	0	本人支援や移行支援、家族支援については、毎回本人及び保護者に現状を確認しながら支援を進めている。その時に必要な具体的な支援を行うようにしている。	地域支援・地域連携については、難しい状態。引き続き、対応を考えていく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	1	全体活動については、児童発達管理責任者が立案し共有することが多いが、個別のプログラムは、その時の担当者が立案している。	大まかなことはチームで共有していても、実際の場面では担当者の判断で行わざるを得ない。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	1	固定化しないように、常に意識し、新しい取り組みを入れるようにしている。	新しいことが苦手な子どもも多く、難しい場面も多いので、無理せずに取り組んでいく。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9	0	それぞれの課題に応じて、個別活動と集団活動の割合は変えているが、どちらの活動も取り組んでいる。	集団活動が苦手な子ども、ルーティンなら取り組めるので、少しずつ変化させて行くことが課題となっている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	0	職員の揃う時間と送迎の時間の都合で、なかなかできない。時間のある時に伝えている。	10月から、職員の出勤時間を調整し、毎日支援開始前にミーティングが出来るようにした。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	0	送迎や就業時間の都合で出来ない。時間のある時には伝えている。急を要することは、職員間のラインで共有。	支援終了と同時に勤務を終える職員も多いので、出来ないことが多い。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	0	日々の記録は提供記録に記入し、月に1回程度、は個人別に記録している。	出勤日数の少ない職員には、記録を読む時間を保証し、大事なことは直接伝えるようにしていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0	基本的には、6か月に1度モニタリングを行い、保護者のニーズ等を確認し、児童発達支援計画を作成している。	特に必要のある場合を除いては、6か月ごとのモニタリングとなっている。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	9	0	複数組み合わせる事で、支援の幅を広げている。	その時の担当者に任せている状態なので、改めて確認する機会を検討する。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9	0	どの場面でも意識している。その後の生活を主体的に生きていくために、必要な事と理解している。	職員の意識の程度に差が出ないようにしていく事が課題。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0	要請には、必ず児童発達管理責任者が参画している。	全て参加しているが、会議時間が子供の利用時間と重なるため、調整に苦労している。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	2	必要な場合のみ、保護者の了解を得て連携をとっている。	機会があれば、連携して支援を行う体制を取っていきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9	0	基本的には、保護者から情報をもらっているが、不十分な部分や、気になる姿が見られる時は、送迎時や電話で確認している。	年に数回は、送迎時間のミス等のトラブルがあり、常に適切には行えていない。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	0	相談支援員を通じて会議を開く場合もあれば、簡単な情報共有の場合もある。	特に気になることがなければ、保護者を通じての情報共有のみの場合もある。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8	1	基本は小学生までとなっているため、中学生になるタイミングで他デに移行する場合には、保護者の許可を得て、情報提供している。	卒業後の移行を含め、引き続き進路情報は学んでいく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8	1	アドバイスを求めて連絡してきた。今後もそのようにしていきたいと思う。	以前よりは、相談先が増えたため、機会は減っている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	8	地域の小学校に在籍している子が多いので、活動する機会は特に作っていない。	保護者のニーズがあれば、検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	4	現在は参加していない。	参加できる機会があれば、参加していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0	日々の提供記録だけでなく、ラインや電話、連絡ノート等で、共通理解を取るよう努めている。	保護者によって差が出ないように、配慮していく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	4	懇談や、日々接するなかで、家族への支援も行うようしている。研修等の情報提供は、希望者にお知らせしている。	情報提供を希望しない保護者への対応は課題。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	0	契約時には、児童発達管理責任者が説明している。	定期的に、運営規定等の重要書類を、職員も目を通すようにしていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0	事前に子どもと保護者のニーズを記入してもらい、意向確認をしている。	保護者が代筆している場合が多いので、子ども本人のニーズ確認は課題。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	1	支援計画更新懇談を45分程度行っている。その後、同意を得て署名してもらっている。	電話での懇談を希望される場合は、予め個別支援計画をお渡ししている。より丁寧に説明が必要だと思う。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0	保護者からの相談依頼には、面談や電話等で助言や支援を行っている。気になることがある場合には、こちらから連絡を入れている。	定期的ではないので、保護者から相談依頼がない場合は、支援が行き届いてない場合もある。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	8	保護者会等は設けていない。お迎えの時間が同じ場合には交流がある場合もある。	保護者向けの研修会を開き、その後、交流するという形で行う予定。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0	重要事項説明書に記載し、苦情対応の手順は説明している。マニュアルも整備している。	保護者は、苦情が言いにくいかもしれないので、普段のコミュニケーションにも注意していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9	0	定期的な通信は年に1回のみで、活動概要や行事予定は、ラインや文書でその都度発信している。	SNSでの発信は、希望があれば検討していきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0	雇用契約書に、個人情報の取り扱いについては明記している。	さらなる注意を継続していく。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0	意思疎通が困難な子どもとは、日々の中で工夫を重ねている。	意思疎通が困難な保護者とは、直接会って話す等の個々に応じた丁寧な関わりを持っていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	8	地域の方を改めて招待したことは無いが、頂き物をする等の交流はある。地域の総会には年に2回参加。	大々的な交流は、難しい課題だと思う。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0	マニュアルは全て作成し、ファイルにして玄関に置いている。	周知できないので、HPに掲載する等も検討する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	0	計画は策定済。発生を想定した訓練も、12月に予定している。	訓練は今年度からなので、課題はこれから出てくると思う。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8	1	契約時や懇談の時に確認している。	保護者からの報告がなければ、確認できないことが多い。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	1	今は、食物アレルギーの子はいない状況。	今後、食物アレルギーの子の利用が出てきたら、医師の指示書を提出してもらおう。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	0	安全計画を策定し、それに基づき、訓練等を行う。	十分な安全管理ではないので、随時改善していく。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	0	地震等の大きな災害時は、ラインでの安否確認をし、個々に応じて、祖父母宅への送迎も確認済。	家族への周知は、定期的に行う事を検討する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0	ヒヤリハット報告書は、出来るだけ当日に記入し、職員間で共有。原因の分析と再発防止の対策は、ミーティングで検討。	改善点を共有していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0	研修に参加できない場合は、動画等で研修している。	虐待に関する外部研修に、なかなか参加できていない。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	0	今は対象児がいらないが、マニュアルは策定している。	身体拘束適正化委員会で、手順等を再確認しておく。	